

【参考資料】各研修コースの内容

市町村長防災危機管理ラボ

◆研修方法

都道府県単位で、都道府県、市長会、町村会等関係団体の協力を得て講演形式、対談方式等により実効性のある実施方法を調整して実施（消防庁と都道府県が主催する「市町村長のための防災・危機管理セミナー」との同時開催等柔軟な開催が可能。）。

◆研修対象者

市町村長

◆研修内容例

●講話

災害体験首長による体験談

学識経験者による災害対応のあり方解説

※災害対応必須ノウハウに関するテキストの配付

災害発生時に市町村長は大きな責任を負う

災害発生時に市町村長は何をすればよいか

→災害発生時の行動

◆災害発生情報の発信と収集

◆応援要請の有無の判断

◆職員へのメッセージ

・・・全責任を負うから職員は住民のために最善を！

◆住民へのメッセージ

・・・マスコミ・防災行政無線等を活用し、住民を元気づける
メッセージを発信

→マスコミ対応

◆マスコミ対応は「初め良ければ全て良し」

◆記者会見は、定時に、資料をもって行うこと

◆基本的な研修時間割

開催形態や講師数等に応じ、概ね1時間～3時間程度。

市町村防災担当幹部職員研修

◆研修方法

- 市町村防災担当幹部職員を対象に、都道府県単位で実施（４時間程度）
- 講師陣：消防防災科学センター研究員、被災市町村職員

◆研修対象者

市町村防災担当幹部職員

◆研修内容

- ① 被災自治体幹部職員による災害時の対応に関する講義
- ② 警戒・初動段階における意思決定・判断に関する演習

◆基本的な研修時間割

時間割	内容	時間
10:00～10:10	オリエンテーション	10 分
10:10～11:50	被災自治体幹部職員による災害時の対応に関する講義（質疑応答含む）	100 分
11:50～12:50	昼食休憩	60 分
12:50～14:50	警戒・初動段階における意思決定・判断に関する演習（発表・講評含む）	120 分
14:50～15:00	アンケート記入	10 分

市町村防災力強化専門研修

◆研修方法

市町村職員を対象に、都道府県において、「研修内容」の各研修コースから希望するテーマを選択し、都道府県単位で実施する（５時間程度）。

研修対象の市町村職員は、防災担当に限らず、避難所の開設・運営、要配慮者支援担当などを含む。複数名での受講可。

◆研修内容及び講師陣

①災害対策本部における情報処理に関する研修（体験型）

仮想のまちであるＺ市が震度６強の大地震に襲われたことを想定し、発災初動期における殺到する情報の整理・トリアージについて模擬的に体験し、災害対策本部における情報処理のノウハウを習得する。（講師陣：消防防災科学センター（研究員・防災図上訓練指導員））

②避難指示等に関する実務研修（座学＋グループ情報交換等）

市町村が災害時に発令する避難指示等について、過去の災害時における事例分析と基本的な知識を学ぶ。グループワークにより避難指示等に係る課題検討を行い、風水害に係る実戦的シミュレーションにより、避難指示、避難誘導等のあり方及び課題の解決策を習得する。（講師陣：（株）防災＆情報研究所）

③避難所の運営に関する実務研修（座学＋グループ情報交換等）

避難所開設・運営事例と課題について、過去の災害事例から基本的な知識を学ぶとともに、ワークショップ形式のグループ討論により避難所施設の使い方、避難所で生じる課題への対処要領や事前に準備しておくべき対策を習得する。（講師陣：（一社）減災・復興支援機構）

④要配慮者・避難行動要支援者に関する実務研修（座学＋グループ情報交換等）

避難行動や避難所生活等において特に配慮や支援を要する方々のための防災対策に関し、過去の災害時の対応事例や先進地域の取組事例を紹介するとともに、他市町村の取組状況に関して、参加者同士のグループ討論により情報交換を行うことにより、要配慮者・避難行動要支援者対策のあり方を学び、課題の解決策や留意点を習得する。（講師陣：（株）社会安全研究所）

⑤福祉避難所の設置・運営に関する実務研修（座学＋グループ情報交換等）

市町村の福祉部局・防災部局の職員だけでなく、従来、防災に深く関わっていないが災害時には重要な役割を担う社会福祉協議会や福祉施設の職員など福祉関係者も対象として、福祉避難所の設置・運営に関する実務研修を実施し、今後の福祉避難所設置・運営に資するノウハウを習得する。（講師陣：（一社）福祉防災コミュニティ協会）

⑥災害対策本部運営訓練に係る体験研修－災害対策本部運営ゲームの紹介－

小規模市町村での風水害対応（警戒期～初動対応期）を想定した「災害対策本部運営ゲーム」を、体験を通じて紹介する。（講師陣：消防防災科学センター（研究員・防災図上訓練指導員））

⑦支援物資の対応に係る実務研修（座学＋グループ討論等）

発災初期における支援物資の対応について、元被災自治体職員並びに物流事業

者から対応事例等を紹介するとともに、グループ討論により、物資の受入・管理等に関する対策を習得する。(講師陣：消防防災科学センター研究員、元被災自治体職員、物流事業者)

*研修コース別の研修内容は、次ページ以下に示すとおり。

①災害対策本部における情報処理に関する研修

◆研修方法

仮想のまちであるＺ市が震度６強の大地震に襲われたことを想定し、Ｚ市の本部室要員としての役割を付与された参加者は、本部班に同時に多数の情報が入ってくる状況を模擬的に体験する。それにより、情報の整理やトリアージ等災害対策本部における情報処理のノウハウを学ぶ。

◆研修対象者

市町村防災担当職員・消防職員

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	タイトル	内容
9:00～ 9:10	オリエンテーション	本研修の位置づけ、進め方、資料配付の方法等について説明する。
9:10～10:25	演習 1 (グループワーク)	演習 1 では、災害対策本部設置をいかに早く立ち上げて、本部として機能させるか、事前の対策や準備について議論し、意見交換する。
10:25～10:35	休憩	
10:35～11:40	演習 2 (図上シミュレーション訓練 1)	模擬体験研修の進め方を解説し、災害対策本部に同時に多数の情報が入ってくる状況を模擬体験（１回目）する。
11:40～12:40	昼食休憩	
12:40～15:00	演習 2 (図上シミュレーション訓練 2)	体験 1 を振り返り、情報の整理やトリアージ等効果的な情報処理について解説し、模擬体験の 2 回目を実施する。2 回目の模擬体験後、振り返りとして、参加者全員で情報処理のあり方について意見交換を行う。
15:00～15:10	休憩	
15:10～15:30	消防防災 GIS の活用事例紹介	消防防災 G I S の有効性を解説する。また、消防防災 G I S サポーターの活用事例紹介も行う。
15:30～15:40	アンケート、閉会	

◆その他

- 参加者の班分けは、実施都道府県と協議の上、事前に決める。
- 「消防防災 G I S の紹介」は、実施都道府県と協議して、実施の有無若しくは実施時間（時間短縮も可）を決定する。なお、消防防災 G I S は消防防災科学センターが開発・運用しているシステムで、市町村の災害対応を支援する防災情報システム。

- 本研修は、消防防災科学センターに登録している図上訓練指導員、消防防災GISサポーターの協力を得て実施する。
- 図上訓練指導員は、図上訓練の全国的な普及を図るため、現役の消防職員、消防OB、民間企業の方など図上訓練に関心が高く、知識豊富な方々に登録の上で、活動していただいている。令和7年度は44名が活動。
- 消防防災GISサポーターは、本GISを積極的に活用している自治体の担当で、毎年度消防防災科学センターが委嘱している。令和7年度は4名に委嘱し、年度末に活用事例の報告会で発表していただいている。

②避難指示等に関する実務研修

◆研修方法

近年、激甚化し、頻発する風水害から人々の生命を守るため、緊急時に市町村等が発令する避難指示等の情報提供が重要である。避難情報は防災気象情報の警戒レベルに応じて発令されるが、令和8年5月下旬（予定）から新たな防災気象情報の運用が開始されることから、これに基づく避難指示等の発令について習熟する必要がある。さらに、避難情報は、風水害以外の土砂災害、地震・津波、令和7年に頻発した山林火災等においても発令されるため、地方自治体は異なる災害事象に応じて極めて高度な意思決定を瞬時に行わなければならない。

本研修では、危機が迫っている中での初動対応のあり方、どのような対象者・対象範囲に対して、適切なタイミングと内容で避難情報を発令し、避難誘導をすべきかなどについて、基本的な知識の習得を図るとともに、過去の災害時における事例分析（奏功例・懸案事項・教訓等）、避難指示等に係る課題検討を行った上で、災害時の具体的な状況設定に基づく実践的な簡易シミュレーションをグループワークにより実施する。これらを通して、避難情報の発令、避難誘導等のあり方、その解決方策について、より実際に即した理解を深める。

◆研修対象者

市町村防災担当職員、福祉・土木・建設等担当職員、消防職員等

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	タイトル	内容
9:30～10:00	(受付)	
10:00～10:05	オリエンテーション	・本研修の位置づけ、進め方等について説明する。
10:05～12:00	災害時の適切な避難指示等に向けて	講師が、次の基本的知識等を解説する。 ・近年発生している災害と避難指示等の対応状況等（風水害を中心に、地震・津波災害等も含む） ・初動対応及び避難指示等の基準等 ・内閣府「避難情報に関するガイドライン」など
12:00～13:00	昼食休憩	
13:00～13:30	避難指示等のあり方 過去の事例分析	講師が、次の対応事例等を解説する。 ・避難指示等のあり方について ・過去の風水害・土砂災害、地震時事例 研修実施都道府県の市町村における避難指示等の発令事例等について、参加者が報告する。
13:30～14:50	グループワーク (1)	・避難情報の発令、避難所等の確保と運用、避難促進の課題についてグループごとに検討する。 ・検討結果を発表し、意見交換する。
14:50～15:00	休憩	
15:00～16:20	グループワーク (2)	・新たな防災気象情報に基づく風水害時の対応シミュレーションを実施する。

		・風水害時の対応シミュレーションの検討結果を 発表し、意見交換する。 ※フェーズを2つに分けて実施
16:20～16:30	アンケート、閉会	

※研修内容の一部及び時間に変更される場合があります。

◆その他

- 受講者には、地元の状況について過去事例の分析やグループワークの中で紹介してもらう場合がある。過去の災害時における当該市町村の避難情報発令及び避難状況や避難所運営上の課題等について事前に回答をお願いするとともに、関連資料（地域防災計画やハザードマップ等）の持参や報告をお願いすることがある（資料内容は別途連絡）。
- 本研修の全体取りまとめ及び講師は、株式会社防災&情報研究所が行う。

③避難所の運営に関する実務研修

◆研修方法

災害時の避難者対応は自治体にとって最も重要な活動である。一方で地域防災計画によると非常に少ない派遣職員で大勢の避難者に対応しなければならない状況にある。現在、避難所内の感染症の拡大や災害関連死が大きな課題となっている。

本研修では、避難所開設等の課題を事例で紹介し、その知識をもとに避難所となる施設の使い方や避難所での様々な課題にどのように対処するかをワークショップ形式で学んでもらう。さらにこのような実戦型の研修を通じ、事前に実施しておくべき対策についても解説する。

◆研修対象者

市町村避難所担当職員、防災担当職員

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	タイトル	内容
10:00～10:10	オリエンテーション	本研修の位置づけ、進め方等を説明する。
10:10～12:00	避難所の開設・運営に関する事例と解説(座学)	東日本大震災など、過去の災害で避難所開設・運営時に課題や問題となった事項、その解決策などについて紹介する。
12:00～13:00	昼食休憩	
13:00～16:00	グループ討論(1) 避難所のレイアウトの作成	参加者6～7人で1グループを構成、グループ単位で討議。避難所となる学校図面を使ってレイアウトを作成する。参加者発表後に講師が使用時のポイント、注意点などを解説する。
	グループ討論(2) 避難者主体の運営を考える	避難所を、避難者に運営してもらうための依頼内容とその課題、解決策等を考える。検討結果を発表後、講師が事例紹介する。
	グループ討論(3) 個別課題への対応	避難所で良く出てくるさまざまなニーズやトラブルを課題として提示、その対処方法をグループで討論。参加者発表後に講師が対応例を紹介する。
16:10～16:25	全体総括、講評	事前対策のポイントなどを解説する。
16:25～16:30	アンケート、閉会	

◆その他

- 受講者は、自主防災組織の役員などを同伴することができる。ただし、1自治体あたり、参加の職員数を超えてはいけない。

- 防災担当者以外に、福祉、教育関係の部署の参加も奨励する。
- 本研修の全体取りまとめ及び講師は、一般社団法人 減災・復興支援機構が行う。

④要配慮者・避難行動要支援者に関する実務研修

◆研修方法

高齢者、障害者等の避難行動や避難所生活等において特に配慮や支援を要する方々のための防災対策や各種制度等の解説、過去の災害時における対応事例、先進地域の取組事例等を紹介する。また、研修参加者によるワークショップでは、市町村が対策を進める上での課題やその解決策などについて、グループ討論や情報交換を行う。

今後、要配慮者・避難行動要支援者対策をどのように進めていけばよいか、その課題解決策や留意点を習得し、参加自治体における支援対策の構築に資するための研修とする。

◆研修対象者

市町村要配慮者・避難行動要支援担当職員、防災・福祉・保健等担当職員

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	タイトル	内容
10:00～10:15	オリエンテーション	本研修の位置づけ、進め方等を説明する。
10:15～11:00	過去の災害事例と要配慮者対策・制度の変遷	過去の災害時における要配慮者への対応事例や課題・教訓、要配慮者・避難行動要支援者対策に関する各種制度等を紹介する。
11:00～12:00	先進自治体の取組事例紹介	避難行動要支援者に関する個別避難計画の作成における推進体制や計画内容、福祉避難所等について、先進自治体の取組事例を紹介するとともに、対策を進める上での留意点等を解説する。
12:00～13:00	昼食休憩	
13:00～15:20	ワークショップテーマ例 ・個別避難計画の作成における推進体制や計画内容のあり方 ・災害時における行政の要配慮者対応	参加者6～8人で1グループを構成、グループ単位で協議する。 個別避難計画の作成を進める上で直面している課題や悩みごと等を共有するとともに、それらの克服策や解決策などについて、情報交換やアイデアを出し合うなど話し合いを行う。 なお、計画作成等の取組事例紹介の一環として、一部の参加市町村に発表をお願いすることもある。
15:20～15:30	休憩・懇談	
15:30～16:20	ワークショップ結果の発表及び講評	ワークショップ結果の発表とともに、講評や全体質疑等を行う。
16:20～16:30	アンケート、閉会	

◆その他

- 本研修用のテキストを講義前に配付する（一部、講義中に配付するものもある）。
- 受講者には地元の状況についてグループ討論の中で簡単に紹介してもらう場合があるので、関連資料の持参をお願いすることがある（資料内容は別途連絡）。
- 本研修の進行及び講師は、株式会社 社会安全研究所が行う。

⑤福祉避難所の設置・運営に関する実務研修

◆研修方法

福祉避難所の設置・運営に関する実務研修は、講義やグループワークにより福祉避難所に関する知識を習得し、福祉避難所マニュアルの作成方法を学び、参加者自身がマニュアルを作成することを目的として、前期と後期の2回実施する。

前期研修は、福祉避難所についての講義、災害及び福祉避難所イメージを強化するための演習、マニュアルひな形を活用した福祉避難所マニュアルの作成手法の講義を実施する。その後、参加者は出身組織に戻り、後期研修までの1～2か月で組織内アンケートや職員等のグループワークを実施しながら、自地域・施設の状況に合わせてマニュアル素案を作成していただく。

後期研修は、福祉避難所図上訓練を通じて福祉避難所

をどう運営するか演習で学ぶと共に、作成してきた各自のマニュアル素案を相互参照したり講師からの助言等を受けたりすることによりマニュアルのレベルアップを図る。また初動対応や更なるマニュアルのレベルアップについても講義する。

以上の講義・演習により実効性の高いマニュアルが完成すると共に、今後の福祉避難所設置・運営に資するための研修とする。

◆研修対象者

市町村の福祉部局・防災部局だけでなく、従来、防災に深く関わっていないが災害時には福祉避難所開設・運営に関して重要な役割を担う社会福祉協議会や福祉施設の職員など福祉関係者

◆研修内容及び基本的な時間割（時間は目安です）

【前期研修】

時間割	分	タイトル	内容
13:30～13:35	5	オリエンテーション	本研修の位置づけ、進め方等を説明
13:35～14:20	45	大災害及び福祉避難所の状況	(1)過去の大災害と教訓 (2)福祉避難所設置・運営の現状と課題
14:20～14:45	25	災害と福祉関係者のイメージづくり	(3)被災者の災害エスノグラフィを読み、課題や教訓を抽出しつつイメージづくりを行う
14:45～15:00	15	休憩（予定）	
15:00～16:30	90	グループワーク	(4)グループワークで、災害及び福祉避難所イメージの強化とアイデア出し (5)グループワークの成果紹介
16:30～17:00	30	マニュアル作成方法説明	(6)福祉避難所マニュアルの作成方法をひな形で解説 (7)アンケート記入

※ 後日マニュアルひな形を電子データで交付

1～2 か月間 各組織で マニュアルの 素案を作成	(1)職員アンケート等により、福祉関係者等のリスク、災害時の不安、参集可能性、自助の状況等を把握 (2)職員のグループワーク等で議論し、ひな型の自施設特有部分を埋め、改良 (3)福祉避難所マニュアル素案を作成 ※ ここで作成したマニュアルを後期に持参
--	--

【後期研修】

時間割	分	タイトル	内容
13:30～13:35	5	オリエンテーション	進め方等を説明
13:35～13:50	15	前期研修のおさらい	(1)前期研修のおさらいと能登半島地震の経験 (2)福祉避難所マニュアル作成の重要ポイント
13:50～15:30	100	グループワーク	(3)クロスロードと福祉避難所図上訓練
15:30～15:40	10	休憩（予定）	
15:40～16:20	40	マニュアルの確認、初動対応のレベルアップ	(4)作成したマニュアルの確認と意見交換、バージョンアップ (5)福祉避難所スタートボックス解説
16:20～16:50	30	初動対応とマニュアルのレベルアップ、継続	(6)福祉避難所マニュアルのレベルアップ事例紹介 (7)今後の取組み、訓練、検証、見直し継続への展開
16:50～17:00	10	質疑応答	(8)質疑を受け、講師が応答 (9)振り返り、アンケート記入

研修後	各組織へ戻りマニュアルを修正、各自の福祉マニュアル第1版が完成
-----	---------------------------------

◆その他

- 受講者には事前に福祉防災全体のイメージを持ってもらうため、テキストとなる書籍（ひな型でつくる福祉BCP～実効性ある計画と役立つ研修・訓練の手法～）を紹介する。
- 福祉避難所の設置・運営に関する質問事項があれば、事前に受け付けていただくことで可能な限りそれに応じられるようにする。
- 本研修の全体取りまとめ及び講師は、一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会が行う。

⑥災害対策本部運営訓練に係る体験研修 －災害対策本部運営ゲームの紹介－

◆研修方法

小規模市町村での風水害対応（警戒期～初動対応期）を想定した「災害対策本部運営ゲーム」を、体験を通じて紹介する。

※「災害対策本部運営ゲーム」

災害対策本部運営ゲームは、小規模市町村における災害対策本部運営訓練の一つとして、風水害の警戒期から発災直後を想定し、準備や実施に大きな負担なく6～7人程度のグループで災害対策本部の運営を疑似体験できるよう開発したものである。

年度当初などに地元の体制で本教材を使ってゲーム（訓練）を行い、災害対策本部の体制（役割分担、担当者の人数、備品、情報整理等）の確認・見直し・改善を行うきっかけとしていただきたいという趣旨で開発したもの。

◆研修対象者

市町村防災担当職員・消防職員

◆研修内容及び基本的な時間割（例）

時間割	内容
13:00～13:05	あいさつ
13:05～13:10	オリエンテーション
13:10～15:30	災害対策本部運営ゲーム体験
15:30～15:40	（休憩）
15:40～15:50	地元での実施に向けて
15:50～16:00	アンケート・閉会

◆その他

- 6～7人を1組としたグループで実施。グループ分けは実施都道府県と協議の上、事前に決める。
- 本ゲームで想定している市町村の規模は人口2万人程度としている（研修受講は市町村の規模に関わらず可能）。
- 本研修は、消防防災科学センターに登録している図上訓練指導員の協力を得て実施する。

⑦支援物資の対応に係る実務研修

◆研修方法

発災初期における支援物資の対応について、元被災自治体職員並びに物流事業者から対応事例等を紹介するとともに、グループ討論により、物資の受入・管理等に関する対策を習得する。（講師陣：消防防災科学センター研究員、元被災自治体職員、物流事業者）

◆研修対象者

市町村防災担当職員、物資担当職員

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内 容
9:00～ 9:05	主催都道府県あいさつ
9:05～ 9:10	オリエンテーション
9:10～10:20	【講義１】発災初期における市町村での物資対応（講師：元被災自治体職員）
10:20～10:30	（休憩）
10:30～12:00	【講義２】支援物資に係る対応について（物資対応で使用する資機材の実演含む）（講師：物流事業者）
12:00～13:00	（昼休憩）
13:00～14:25	【演習】グループ討論（物資拠点、ニーズ調査、調達、避難所への配送等の検討）
14:25～14:35	（休憩）
14:35～15:55	【演習】グループ討論（物資配置の広さ、物資拠点内レイアウト等の検討）
15:55～16:00	アンケート、閉会

◆その他

- 5～6人を１組としたグループで実施。グループ分けは実施都道府県と協議の上、事前に決める。
- 本研修は、消防防災科学センター研究員、元被災自治体職員、物流事業者等により行う。

市町村防災力強化出前研修

◆研修方法

市町村において「研修内容」の各研修コースから、希望する1つのメニューを選び、演習形式により実施（3時間程度）。

講師：消防防災科学センター（研究員・図上訓練指導員）

◆研修内容

①住民向け災害図上訓練DIG（地震版）

◇達成目標：地域の防災環境に関する住民の理解

◇研修内容：「オリエンテーション」「地域の理解を深める」「被害を想定する」「対策を検討する」「発表・意見交換」「講評、まとめ」

②住民向け災害図上訓練DIG（風水害版）

◇達成目標：地域の防災環境に関する住民の理解

◇研修内容：「オリエンテーション」「地域の理解を深める」「被害を想定する」「対策を検討する」「発表・意見交換」「講評、まとめ」

③避難所HUG（ハグ）（風水害版）

◇達成目標：風水害時の避難所運営要領に関して住民や職員等の理解

◇研修内容：「演習の説明」「自己紹介」「避難所HUGの実施」「感想、発表、意見交換」「講評、まとめ」

④新任職員を対象とした状況予測型訓練（地震版）

◇達成目標：災害時の参集に関する職員の意識強化

◇研修内容：「訓練方法解説」「状況付与に基づく検討」「グループ討論、意見交換、発表」「講評・まとめ」

⑤地域版タイムライン作成研修

◇達成目標：地域で避難行動を行う際の関係者が各々マイタイムラインと地域版タイムラインを作成し、継続して地域の関係者が連携した災害対応について検討できる体制を作ること

◇研修内容：「地域版タイムラインの紹介」「避難の重要性に関する習熟」「マイタイムラインの作成」「地域版タイムラインの作成」「グループ討論、意見交換、発表」「今後に向けて、まとめ」

* 研修コース別の研修内容は、次ページ以下に示すとおり。

①住民向け災害図上訓練D I G(地震版)

◆研修方法

「災害を知る！地域を知る！人を知る！」をキーワードとして、地域住民を対象に、大地震を想定した災害図上訓練D I G(ディグ)(地図への書き込みや付箋貼りを通じたグループ学習)を実施し、防災意識を高める。地域の防災環境に関する住民の理解を深めることを達成目標とする。

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内容	時間
9:00～ 9:10	◆オリエンテーション	10 分
9:10～ 9:25	◆準備	15 分
9:25～ 9:50	◆自分の住む地域を知りましょう	25 分
9:50～10:25	◆大地震が起こった時どのような被害が起きそうか考えましょう	35 分
10:25～10:35	休憩	10 分
10:35～11:05	◆大地震時にどのように行動すべきか考えましょう	30 分
11:05～11:15	◆被害を減らすために日頃から取り組むべきことを考えましょう	10 分
11:15～11:35	◆グループでの検討結果をまとめましょう	20 分
11:35～11:55	◆発表・意見交換	20 分
11:55～12:00	◆アンケート記入、閉会	5 分

◆その他

●演習方法

グループワーク方式(1グループ5名程度)

●会場

各団体指定の会議室

●時間

3時間程度

●参加者

30名程度(消防団と自主防災組織等との合同研修とすること。)例えば、地区を5地区に絞り、各地区を6名程度としていただく方法をお勧めします。

●ファシリテーター(進行・解説)

消防防災科学センター図上訓練指導員3名

●実施団体で用意していただきたいもの

参加者各自の筆記用具(ボールペン等)、グループ毎の地図(1/2500～1/5000)、プロジェクター、スクリーン、音響設備(マイク2本)等

※学習参考資料として、可能であれば防災マップ等をご準備下さい。

②住民向け災害図上訓練D I G(風水害版)

◆研修方法

「災害を知る！地域を知る！人を知る！」をキーワードとして、地域住民を対象に、風水害を想定した災害図上訓練D I G(ディグ)(地図への書き込みや付箋貼りを通じたグループ学習)を実施し、防災意識を高める。地域の防災環境に関する住民の理解を深めることを達成目標とする。

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内容	時間
9:00～ 9:10	◆オリエンテーション	10 分
9:10～ 9:25	◆準備	15 分
9:25～ 9:50	◆自分の住む地域を知りましょう	25 分
9:50～10:25	◆災害に見舞われたときどのような被害が起きそうか考えましょう	35 分
10:25～10:35	休憩	10 分
10:35～11:05	◆災害時にどのように行動すべきか考えましょう	30 分
11:05～11:15	◆被害を減らすために日頃から取り組むべきことを考えましょう	10 分
11:15～11:35	◆グループでの検討結果をまとめましょう	20 分
11:35～11:55	◆発表・意見交換	20 分
11:55～12:00	◆アンケート記入、閉会	5 分

◆その他

●演習方法

グループワーク方式(1グループ5名程度)

●会場

各団体指定の会議室

●時間

3時間程度

●参加者

30名程度(消防団と自主防災組織等との合同研修とすること。)例えば、地区を5地区に絞り、各地区を6名程度としていただく方法をお勧めします。

●ファシリテーター(進行・解説)

消防防災科学センター図上訓練指導員3名

●実施団体で用意していただきたいもの

参加者各自の筆記用具(ボールペン等)、グループ毎の地図(1/2500～1/5000)、プロジェクター、スクリーン、音響設備(マイク2本)等

※参考資料として、可能であれば防災マップ等をご準備下さい。

③避難所HUG（風水害版）

◆研修方法

地域住民、学校関係者、市町村避難所担当者などを対象に、風水害を想定した避難所HUG（ハグ）（風水害版）を実施し、避難所で起こる様々な出来事を体験し、防災意識を高める。風水害時の避難所運営要領に関して住民や職員等の理解を深めることを達成目標とする。

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内容	時間
9:00～ 9:05	◆オリエンテーション	5 分
9:05～ 9:20	◆HUGの紹介	15 分
9:20～ 9:40	◆ルールの説明	20 分
9:40～ 9:50	◆自己紹介（アイスブレイク）	10 分
9:50～11:00	◆避難所HUGの練習及び体験	70 分
11:00～11:10	休憩	10 分
11:10～11:50	◆感想、発表、意見交換、講評、まとめ	40 分
11:50～12:00	◆アンケート記入、閉会	10 分

◆その他

●演習方法

グループワーク方式（1 グループ 5 名程度）

●会場

各団体指定の会議室

●時間

3 時間程度

●参加者

地域住民、学校関係者、市町村避難所担当者など 30 名程度（消防団と自主防災組織等との合同とすること。）例えば、地区を 5 地区に絞り、各地区を 6 名程度としていただく方法をお勧めします。

●ファシリテーター（進行・解説）

消防防災科学センター図上訓練指導員 3 名

●実施団体で用意していただきたいもの

参加者各自の筆記用具（ボールペン等）、プロジェクター、スクリーン、音響設備（マイク 2 本）、グループ分のホワイトボード

※学習参考資料として、可能であれば防災マップ等をご準備下さい。

④新任職員を対象とした状況予測型訓練(地震版)

◆研修方法

大地震発生時に自らが直面する状況や役割をイメージし、職場への参集に関する問題点を把握するためのグループワークを行う。災害時の参集に関する新任職員の意識強化を図ることを達成目標とする。

※ 災害対策本部運営訓練（図上シミュレーション訓練）ではありません。

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内容	時間
9:00～ 9:05	◆オリエンテーション	5 分
9:05～ 9:30	◆研修内容の説明、地震災害の解説ほか	25 分
9:30～10:00	◆想定 1：参加者各自の検討・発表・解説	30 分
10:00～10:30	◆想定 2：参加者各自の検討・発表・解説	30 分
10:30～10:40	休憩	10 分
10:40～11:10	◆想定 3：参加者各自の検討・発表・解説	30 分
11:10～11:40	◆まとめ：参加者各自の検討・発表	30 分
11:40～12:00	◆研修全体のまとめ、アンケート記入、閉会	20 分

◆その他

●演習方法

グループワーク方式（1 グループ 5 名程度）

●会場

各団体指定の会議室

●時間

3 時間程度

●参加者

一般新任職員 30 名程度

●ファシリテーター（進行・解説）

消防防災科学センター図上訓練指導員 3 名

●実施団体に用意していただきたいもの

参加者各自の筆記用具（ボールペン等）、プロジェクター、スクリーン、音響設備（マイク 2 本）

※学習参考資料として、地域防災計画、防災マップ等をご準備下さい。

⑤地域版タイムライン作成研修

◆研修方法

地域で避難行動を行う際の関係者（自主防災組織役員、民生委員、消防団員等）が各々タイムラインを作成し、それらを突き合わせたタイムライン（地域版タイムライン）を作成する。顔の見える関係作りと、関係者の動きについて共通認識を図り、継続して地域の関係者が連携した災害対応について検討できる体制を作ることを達成目標とする。

◆研修内容及び基本的な時間割

時間割	内容	時間
9:00～ 9:05	◆開会、挨拶	5 分
9:05～ 9:10	◆地域版タイムラインの紹介	5 分
9:10～ 9:50	◆避難の重要性に関する習熟	40 分
9:50～10:00	◆自己紹介	10 分
10:00～10:30	◆マイタイムラインの作成	30 分
10:30～10:40	休憩	10 分
10:40～11:10	◆地域版タイムラインの作成	30 分
11:10～11:30	◆要配慮者への対応検討	20 分
11:30～11:50	◆グループ発表	20 分
11:50～11:55	◆今後に向けて、まとめ	5 分
11:55～12:00	◆アンケート記入、閉会	5 分

◆その他

●演習方法

グループワーク方式（1 グループ 6 ～ 8 名程度、グループは同じ地区の関係者（自主防災組織役員、民生委員、消防団員等）で構成）

●会場

各団体指定の会議室

●時間

3 時間程度

●参加者（市町村内の代表的な地区を幾つか選抜）

市町村職員（防災担当、福祉担当）、自主防災組織役員、民生委員、消防団員、介護事業者等 30 名程度

●ファシリテーター（進行・解説）

消防防災科学センター図上訓練指導員 3 名

●実施団体に用意していただきたいもの

プロジェクター、スクリーン、音響設備（マイク 2 本）

※学習参考資料として、ハザードマップ等をご準備下さい。

市町村職員防災基本研修

◆研修方法

- 新任防災担当職員を対象に、都道府県単位で実施。
- 講師陣：消防防災科学センター（研究員、防災図上訓練指導員）、被災市町村職員、地元気象台職員、防災専門コンサルタント〔（一社）減災・復興支援機構〕

◆研修対象者

新任市町村防災担当職員

◆研修内容

- ① 気象台からの防災気象情報について（座学）
- ② 災害対応の基礎知識（災害対策本部活動の要諦）（座学）
- ③ 被災市町村職員を交えたグループ討論（座学・演習）
- ④ 避難所HUG体験（演習）

◆基本的な研修時間割

時間割	内容	時間
9:30～ 9:40	オリエンテーション	10 分
9:40～10:20	気象台からの防災気象情報について	40 分
10:20～10:30	休憩	10 分
10:30～12:00	災害対応の基礎知識（災害対策本部活動の要諦）	90 分
12:00～13:00	昼食休憩	60 分
13:00～14:40	被災市町村職員を交えたグループ討論	100 分
14:40～14:50	休憩	10 分
14:50～16:30	避難所HUG体験	100 分
16:30～16:40	災害図上訓練DIG、消防防災GIS紹介	10 分
16:40～16:50	アンケート記入、修了証授与	10 分

◆その他

●実施団体に用意していただきたいもの

参加者各自の筆記用具（ボールペン等）、プロジェクター、スクリーン、音響設備（マイク2本）、グループ分のホワイトボード

オンライン版市町村職員防災連続講座

◆研修方法

全国の市町村職員に対して、専門家による最先端の知見や災害対応実務経験者による体験談を伝える場を提供する。危機管理、避難、避難行動要支援者、受援、防災教育等のテーマについて、講師によるリアルタイムの講演をおおむね2か月に1回（2テーマ各1時間）、計5回オンライン（Zoom ウェビナー方式）で配信する。

◆研修対象者

全国の市町村職員・都道府県職員等（受講者は、市町村防災研修ホームページを通じて毎回募集する。）

◆研修内容

決定の都度、市町村防災研修ホームページ等を通じて案内する。

●令和6年度～令和7年度(予定含む)のテーマ

【令和6年度】

- ◆防災対策を Unlearn～市町村における避難対策の再考（群馬大学大学院：金井昌信氏）
- ◆平成30年7月豪雨災害の教訓とその後の取組み（愛媛県西予市：谷川和久氏）
- ◆災害情報と心理（東京大学大学院：関谷直也氏）
- ◆実災害の対応を通じた自治体職員が行う災害対応の要点－理論と実践からの検討－（三重県伊勢市：藤原宏之氏）
- ◆初動時の課題と受援体制の整備（兵庫県立大学大学院：紅谷昇平氏）
- ◆混乱し続ける被災者支援－能登半島地震での展開と課題－（大阪公立大学大学院：菅野拓氏）
- ◆熊本地震、能登半島地震から学ぶ災害対応（Bosai Tech 株式会社（元熊本市職員）：大塚和典氏）
- ◆被災したあなたを助けるお金とくらしの話～災害復興法学のすすめ～（銀座パートナーズ法律事務所：岡本正氏）
- ◆災害時に活動するさまざまな主体間の連携－ボランティアを中心に－（兵庫県立大学大学院：阪本真由美氏）
- ◆災害マネジメント総括支援員の経験から（三重県いなべ市：大月浩靖氏）

【令和7年度】

- ◆大野城市における人材育成の取組みについて（福岡県大野城市：田代崇憲氏）
- ◆避難所運営に関わる課題と対応（東北大学：佐藤翔輔氏）

- ◆避難を巡る考察（東洋大学：及川 康氏）
- ◆能登半島地震と奥能登豪雨災害の現状（石川県珠洲市：女田良明氏）
- ◆地域防災人材育成とネットワークづくり（岐阜大学：小山真紀氏）
- ◆デジタル技術と自治体の災害対応（国立研究開発法人防災科学技術研究所：臼田 裕一郎氏）
- ◆自治体における応援・受援を考える（吹田市：有吉恭子氏）
- ◆被災地での防犯（兵庫県立大学大学院：松川杏寧氏）
- ◆自治体における災害時のトイレ対策（日本トイレ協会：山本耕平氏）
- ◆災害時の多機関連携・協働の促進について考える（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク：明城徹也氏）

◆基本的な研修時間割

時間割	内容	時間
14:00～14:10	開会、オリエンテーション	10 分
14:10～15:05	講義 1	55 分
15:05～15:10	質疑	5 分
15:10～15:15	休憩	5 分
15:15～16:10	講義 2	55 分
16:10～16:15	質疑	5 分
16:15～16:20	アンケート案内（Google フォームによる）、閉会	5 分

*質疑は講義中に Zoom の「Q&A 機能」で受付け、進行担当が整理した上で講師にフィードバック。

防災啓発研修

◆研修方法

- 都道府県と消防防災科学センターの共催による講演会を開催希望都道府県で実施。
- 講師 学識経験者、中央官庁及び地方公共団体の職員等

◆研修対象者

市町村及び消防本部の職員並びに一般住民等

◆研修内容

地震、台風、集中豪雨、火山噴火、火災等に関する知識及び災害の実態、教訓、対策等並びに国民保護等に関する知識について、都道府県の実情及び研修対象者等を勘案して選定した研修テーマ

●研修テーマの例

- ◆生かされて生きる～いのちをつなぐ教育～
- ◆「地域コミュニティが命を救う～ITを活用した災害に強いまちづくり～」
- ◆地震・津波の脅威から身を守るために
- ◆国民保護関連
- ◆正常性バイアスを払拭して避難させるには
- ◆地域防災における自助、共助の役割～日ごろから避難時の対応まで～
- ◆避難所における新型コロナウイルスとエコノミッククラス症候群の予防対策
- ◆自宅避難に備える～やっておくべき5つのこと
- ◆災害の時代に備える～過去の大災害から学んで～
- ◆災害から守るべきものは何か～多様な視点を持つ地域防災のすすめ～
- ◆頻発する水害・土砂災害からの避難～避難行動要支援者にどう寄り添うか～
- ◆命を救う避難行動と健康を保持する避難所・避難生活～感染症のまん延を踏まえて～
- ◆女性の力を防災に生かすには
- ◆東日本大震災から15年「地域防災の取組と活動」～防災でまちづくり～これまでとこれから
- ◆気象災害から命を守るために
- ◆災害時の避難所をめぐる課題について～女性、子どもの視点から～
- ◆島根県の「防災における女性参画の現状
- ◆来るべき災害に備える～自助・共助・公助の役割～
- ◆楽しく防災活動をやろう～コミュニティが生み出す防災力～

- ◆ 近年の豪雨災害の特徴と教訓、どのように備えればいいのか
- ◆ 自主防災組織の役割と活動～計画避難のすすめ～